

不易流行

～和賀組社長からのメッセージ～

VOL.27 (2018.6.27)

平成30年度スローガン
みんなで目指す顧客感動経営
140年企業としての誇り
～和賀組さんで良かったと言われよう～

株式会社和賀組 代表取締役 和賀幸雄

「草を褥(しとね)に木の根を枕 花を恋して五十年」これは「日本の植物学の父」といわれた、近代植物分類学の権威 牧野富太郎氏（文久2～昭和32年）が晩年に読んだ歌です。高知県佐川町の造り酒屋の跡取り息子として生まれた牧野は子どものころから植物が大好きで、小学校を中退して植物学にのめり込み20歳で東京帝国大学理学部植物学教室に出入り、帝国理科大学助手を経て77歳で東京大学講師を退任しております。「草を布団に木の根を枕にして寝て、花を恋人にして50年が経った、私は草木の精かも知れないと自分を疑ってしまうくらいだ」というこの思いは、都々逸（どいつ）調のしゃれた歌ですが、同時に一つの道に打ち込んだ人の気迫も伝わってくるようです。

私たちは日々働くことで報酬を得て生活が成り立っていますが、草を褥に～という歌は「働き」の意味を私たちに教えてくれています。「労働」の労という言葉には骨折りや疲れという意味がありますが、牧野の歌からそれらは感じ取れません。逆に50年間植物の研究に没頭してきたが、楽しくてしょうがなかったという回顧の想いが伝わってきます。私たちが目指す働き方もまさに喜んで働く「喜働」であり、真の働きとは「疲労無き労働」であると言えます。それではどうしたらそうに感じられるのでしょうか？倫理経営では①自分の仕事の尊さを悟って懸命に働くときに「楽しみ」は自然に与えられる②この「楽しみ」は何事にも代えることのできない人生の喜びであり最高至上の歓喜であると教えております。まさに喜働の神髄は天職の自覚であるということでしょう。

Yale大学のAmy Wrzeniewski教授等は、仕事を「ジョブ、キャリア、天職」の3つに分類し、人は自分の仕事をこのうちのどれかに認識しているとしています。①ジョブ（生活に必要なお金を稼ぐためにしている仕事）②キャリア（昇進や社会的地位、権力、自己肯定感の向上のためにしている仕事）③天職（金銭的目的や社会的地位のためにしているのではなく、自分の人生にとって切っても切り離せないものであり、自分の仕事によって世界が良くなっていると感じられる仕事。または、自分が自分であるためにそれをしていることが重要である）

1993年6月に私は和賀組に仲間入りし、丁度四半世紀・25年が経ちました。建設業を取り巻く環境はめまぐるしく変化し、はじめの10年くらいは慣れない業界で大変な思いもしましたが、先ずは経営者である私が「建設業」を天職と自覚することが重要だと自分に言い聞かせて参りました。当社で働いて頂いている皆さん全員が、現在の仕事をジョブでもキャリアでもなく「天職」だと思って働いて頂けるよう、これからも頑張ってお参りますのでよろしくお願い申し上げます。

（一社）雄勝建設業協会総会

5月21日、湯沢グランドホテルにおいて開催された総会に先立ち、昨年度の優良工事の現場代理人平良部長代理と永年勤続30年の蛭川部長代理の二名が表彰されました。



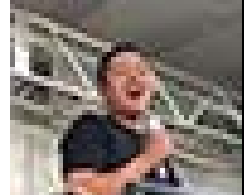
ハイスピード全国大会

5月25日、東京目黒雅叙園にて第12回ハイスピード全国大会が開催されました。受注キャンペーンでは、昨年の3位には及ばなかったものの6位に入りました。標語部門でも優秀賞を頂いております。



B B Q大会

6月9日土曜日恒例のB B Q大会を開催しました。今年はP Cカラオケを準備し、皆さん



に熱唱して頂きました。準備して頂いた皆さんお疲れさまでした！



